



歴史のある日本庭園と
光り輝くテーマパーク。
それぞれのアートの世界に
秘められた物語。



FeStALuCe

紀州藩歴代藩主の中でも、ひと際評価の高い徳川治寶。藩士の子弟教育にも熱心で、音楽や文芸にも造詣が深く、数奇の殿様とも呼ばれた。また実力があると中・下級の藩士でも積極的に重用した名君といわれている。その治寶が住居である西浜御殿の別邸として、和歌山市西浜に築造したのが養翠園である。特徴的なのは広大な海水を引き込んだ「汐入池」で、これほど大規模なものは日本でも珍しく、養翠園の他には浜離宮恩賜庭園ぐらいたという。

「治寶は隠居後も藩の権力を握り続けていました。とはいえ、大つぴらに西浜御殿を訪れるのは、反対勢力や藩主の目を気にする者もいたでしょうし、位の低い藩士だと萎縮した者もいたでしょう。そこで治寶はどんな立場の者とも、藩政について話ができるようにと、養翠園を築造したのかもしれない。そういう理由からか、園内に建つ御茶屋の養翠亭も、権威的な書院造りではなく、身分の序列を意識させない「数寄屋造り」となっています」と語るのには養翠園園主藤井清さん。養翠園は、隠居政治期間を入れると60年もの長きに亘り、権力の座に君臨した治寶の優れたバランス感覚を感じさせる名庭といえる。

また現在、和歌山市で注目されているのが、和歌山マリナーシティで開催される光の祭典「フェスタ・ルーチェ」。それを手がける株式会社タカショー・デジテック社長古澤良祐さんが、和歌山に来たのは約20



紀州徳川家第10代藩主の徳川治寶が隠居してから築造した大名庭園で、その面積は約33,000㎡にも及ぶ。庭園は海の景色を意図的に取り入れず、正面には天神山、側面には高積山の山並みの景色を借景としている。

養翠園(ようすいえん)
住所/和歌山市西浜1164
電話/073-444-1430
入園料/大人(中学生以上)600円
小人(小学生以下)300円



2017年から和歌山で開催されている「フェスタ・ルーチェ in和歌山マリナーシティ」。オフシーズンをオンシーズンに変える光のエンターテイメント。古澤さんはフェスタ・ルーチェ実行委員会会長でもある。

フェスタ・ルーチェ実行委員会事務局
住所/海南市南赤坂20-1(株式会社タカショー・デジテック内)
電話/073-484-3618

■フェスタ・ルーチェ会場
住所/和歌山市毛見1527(和歌山マリナーシティ)
入場料/当日券大人1,500円、学生(高校生以上)750円、中学生以下無料
期間/2021.11.3~2022.2.14